

# 静岡県藤枝市 広幡地区防犯まちづくり推進協議会による 子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会レポート

## 事前準備

### カリキュラム決定の経緯

- ・ パソコンに触れる人が、現状いない。  
→ テキストの優先順位を算出するところまで JAPET 西江が担当。  
テキストの優先順位に加え、規準をあてはめ、地域での検討材料としてもらった。  
↓
- ・ 地域の防犯リーダー格 24 名により、テキスト項目に付与されている規準をチェック。  
→ 結果、優先順位の低い「ネット犯罪」関連の項目には、ほとんどチェックが入らず、優先順位の高いテキスト項目においても、半数程度しかチェックが入らなかった。そこで、優先順位が高い方から、規準にチェックが当てはまらない順に、2つの研修項目を決定した。  
↓
- ・ 次年度の年間カリキュラムの作成は、来年 2～3 月を予定している。  
実施回数は、年に 3 回が限度という認識。リーダーは毎年交替になるため、研修内容は毎年一定となる可能性が高い。

### 講師役の事前準備

- ・ 指導者用解説書に忠実に、当日の講義資料を作成。
- ・ 学校における防犯教育に関する情報は、実際に小中学校や幼稚園に出向き、情報を収集。
- ・ 地域安全マップに関する情報は、平成 17 年に作成した地域の危険個所マップを当日配布するようにコピーして準備。

### 機材の準備

- ・ ビデオ教材視聴のため、プロジェクター、スクリーン、マイクを準備。(公民館設備)
- ・ パソコンとビデオ教材は、JAPET 西江が準備して持参。
- ・ 一人一台のパソコンの準備が不可能であったため、事前事後の自己チェックは省略。

### 参加者の召集

- ・ 広幡地区の地域防犯推進員に声かけ。

## 研修会実施概要

日時：平成 22 年 12 月 14 日（火） 13：00～14：30

場所：広幡公民館 会議室

主催：広幡地区防犯まちづくり推進協議会

参加者：地域防犯推進員 18 名（本プロジェクトからは、JAPET 西江）

講師：広幡地区防犯まちづくり推進協議会 事務局長 菊川 洸一（広幡公民館 館長）

研修項目：①学校での防犯教育 ②地域安全マップ

タイムスケジュール

13：00 開始

13：00～13：05 会長 あいさつ

13：05～13：10 カリキュラム決定の経緯説明

13：10～13：40 ①学校における防犯教育

（広幡地区の現状確認、テキスト・ビデオ教材活用、全体討議）

13：40～14：15 ②地域安全マップ

（広幡地区の現状確認、テキスト・ビデオ教材活用、全体討議）

14：15～14：20 副会長 あいさつ

14：20～14：30 アンケート記入・回収

14：30 終了



## 講義内容

### ①学校での防犯教育

- ・講師（菊川氏）が近隣の小中学校や幼稚園に出向き、子どもたちへの防犯教育の現状をリサーチし、資料にまとめ、研修会参加者に報告。
- ・指導者用解説書から「防犯教育の考え方」を引用して作成した資料を配付し、学齢別にどのような防犯教育が必要かを説明。
- ・まとめとして、ビデオ教材「学校での防犯教育」を全員で視聴。
- ・テキスト「学校での防犯教育」のページにある「規準」「ねらい」を確認。
  
- ・最後にフリーディスカッション（内容は以下の通り）
  - ・（会長：小柳津氏より）警察からの事件発生メール（不審者情報など）はタイムラグがあるので、地域全体（警察・学校・自治会）の緊急連絡網の在り方について、きちんと検討しなければならないと思っている。情報の共有を緊急に。
  - ・（講師より）今まで、小中学校・幼稚園における防犯教育の実態をほとんど把握していなかった。今回、実際に学校に出向いて初めて知ったことがたくさんあった。
  - ・（会長：小柳津氏より）確かに、「やっている」ということは知っていたが、その中身までは知らなかった。
  - ・（副会長：竹田氏より）ただ、子どもたちに対する指導ということになると、地域が介入できる範囲が限られてしまう。現状では、登下校時のみで、子どもと直接対話する機会はほとんどない。学校から地域への講師依頼もない。  
→そこで、最近、地域の防犯活動もマンネリ化しているので、これを機会に、子ども達に接する活動を何か考えてもいいかもしれない。
  - ・（研修参加者より）下校時の見守り活動は大きな抑止力になっているとは思いますが、逆に、「見守ってもらっているから安心」という、子ども自身の油断につながってしまう面もあるのではないか。
  - ・（研修参加者より）学校と地域と、もっと対話をするべきではないか。
  - ・（研修参加者より）11月27日に安全安心まちづくり関連の講習会に参加した時に視聴した「ゼロからの風」（市役所で無料レンタルできるビデオ）という映画（文部科学省選定）がとてもよかった。中学生あたりに視聴させるのがちょうどいいと思うので、中学校と話をし、ぜひ提案したい。（ただ、学校はなかなか時間をとってくれないが・・・）

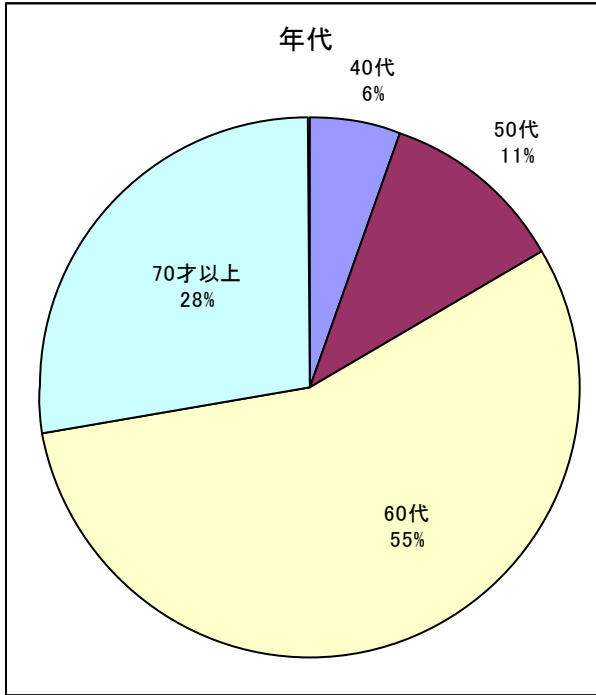
## ②地域安全マップ

- ・テキストP28を参照しながら、「大人の目線と子どもの目線が大切である」というポイントを説明。
- ・指導者用解説書から「地域安全マップづくりの留意点」「効果」を引用して作成した資料を配付し、説明。
- ・広幡地区の現状を説明。
  - ・PTAが危険箇所をチェックしているが、あくまで親の目線のみでのチェックである。
  - ・その危険箇所チェックの結果、改善してほしい点について自治会に依頼があるが、「道幅を広げてほしい」など、すぐに改善できない要望があり、難しい。
  - ・交通安全面からの要望がほとんどで、防犯に関連する危険箇所チェックの意識は薄いように思う。
- ・まとめとして、ビデオ教材「地域安全マップ」を全員で視聴。
- ・最後にフリーディスカッション（内容は以下の通り）
  - ・（副会長：竹田氏より）H17年度に、小中学校PTAの方々に各地域を回っていただいて、地域安全マップを作成していただいた経緯がある。また、毎年PTAが通学路の危険箇所チェックもしているようである。子どもたちは学校での「交通安全教室」にて、通学路の危険箇所チェックをしたことがあるようだ。
    - 広幡地区は地域の危険箇所チェックをいろいろとしているようではあるが、いずれも一過性であり、継続されていないことが問題である。
    - 現在実施しているものを組み合わせて継続していけば、かなりいいモノになるのではないかと積み重ねが大切であると思う。
  - ・（研修会参加者より）その年度に当たった人は、それぞれ活発に活動するが、その引き継ぎがされていない。
  - ・危険箇所の改善についてなど、学校から地域に対して要望が出されたり質問がきたりするので地域として回答をしているが、それが結局どうなったかについて、学校からのフィードバックがない。（地域から市に改善を求める要望書などを提出しているが、それ以外のことはどうなっているのか、まったくわからない）
  - ・（講師より）地域の防犯活動を総括して継続させるためのセッションが必要なのではないかと？
  - ・（副会長：浅羽氏より）平成17年度に作成したものには、子ども目線が欠けているし、この5年で地域の様子も変わっているので、来年8月頃に子どもたちも入れて、地域安全マップ作りを実施してみるのはいかがでしょうか。（教材を活用して）
  - ・（研修会参加者より）通学路の歩道整備など、時間はかかるが取りかかってもいい案件である。今から、地域と行政とで取りかからなければ、いつまで経っても先延ばしで改善されないと思う。
  - ・（講師より）地域安全マップづくりに着手するとしても、そう簡単ではない。一年くらいのスパンでまとめるつもりで、準備をしなければならないだろう。子どもも巻き込むのであれば、保護者の協力も必要不可欠。

アンケート簡易集計結果

アンケート①テキストに関するアンケート

対象者：研修会参加者 18 名

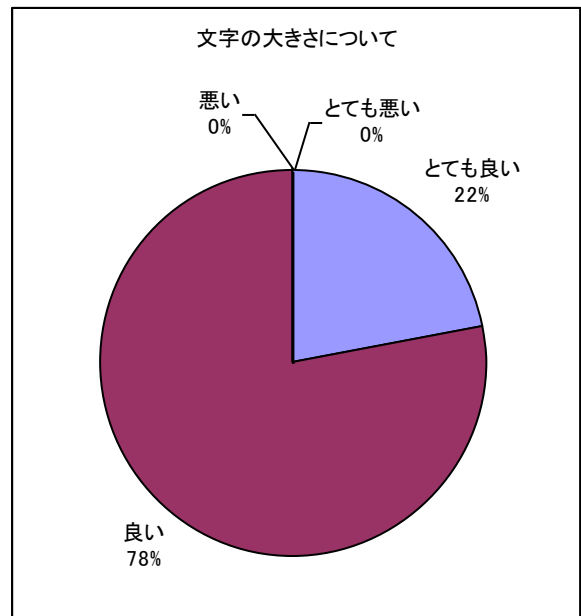
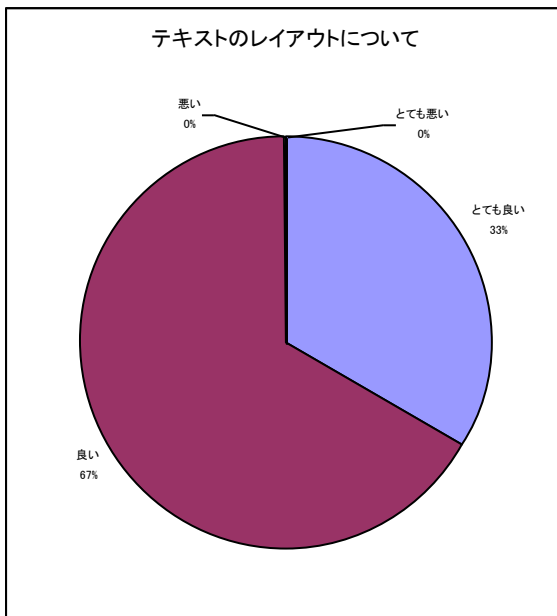


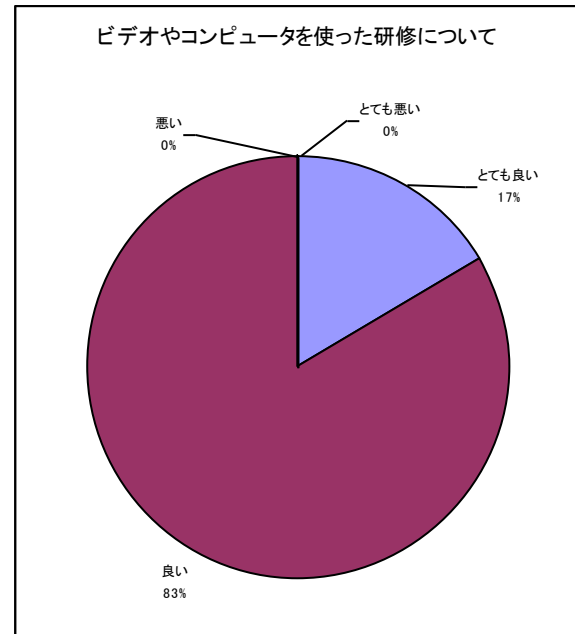
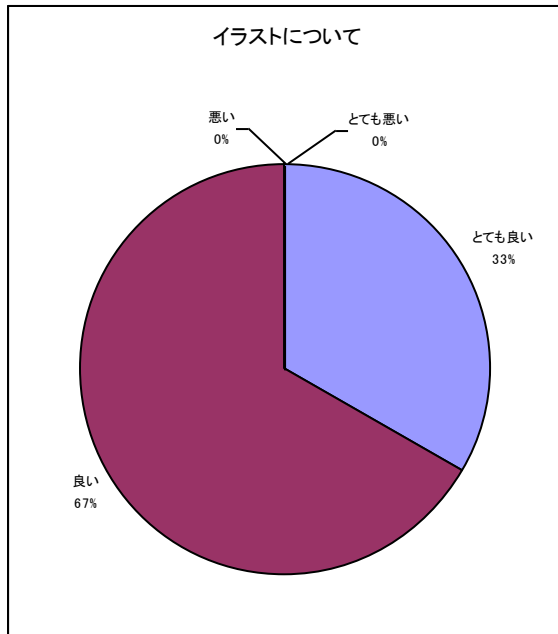
・活動年数 平均 6 年半  
(最長：27 年、最短：8 ヶ月)

・防犯活動に関する意識レベル  
平均 3.47  
(0 = ない、6 = リーダーレベル)

・学校での防犯教育  
知識レベル平均 2.6  
理解レベル平均 3.6

・地域安全マップ  
知識レベル平均 3.3  
理解レベル平均 3.7





### アンケート②指導者用解説書に関するアンケート

対象者：講師役 1 名（男性・70 才以上・ボランティア・防犯活動への参加年数 2 年半）

担当科目：①学校での防犯教育 ②地域安全マップ

●指導者用解説書で参考になった資料 3 点

- ・学校での防犯教育…学校と地域の連携がポイントである点
- ・地域安全マップ…目的) 子どもが自ら判断する力を身につけることの大切さの説明
- ・地域安全マップ…効果) 大人・子どもが協働作業を行うことにより、地域内の交流が促進できる。

●指導者用解説書以外に準備した資料

- ・広幡地区安全マップ（平成 17 年度作成）

●指導者用解説書以外に必要なと思う資料

- ・特になし

●その他ご意見

地域内にある各種団体は、防犯についてまじめに取組み活動しているが、それぞれが独立した立場で行っている。これらの団体を統轄する機関、情報を共有できるシステムの構築が必要だと感じた。